

## 逆境に負けるな！

困難な状況に落ちいったとき、人はどのように対処しようとするでしょう。

ある人はその困難に立ち向かい、またある人はそれを運命と受け入れ、さらにある人はその場でただただ時の過ぎるのを待つかもしれません。あるいは状況を恨んで他人に責任を転嫁したり、切れて暴れたりする人もいるかもしれません。

これらはその困難な事情によって対処法は変わるべきものであり、一概に立ち向かうことばかりが正しいとは言えません。ただ、いつもいつもあきらめたり、物陰に隠れてばかりいては、自分の望む未来はやってこないことも確かです。

難しい問題に時間をかけて考えたり、勉強と部活の両立をはかったり、友人との関係に悩んだりなど、困難な状況は何も特別なこととは限りません。たとえば「ゲームがうまくクリアできない。」という、大人の視点から見ればたわいもないと思えるものも本人にとっては「困難な状況」であるかもしれません。

親の立場からすると子供の苦しんでいる様子を見ると「助けてあげたい」と思うかもしれませんが、すべての困難を取り除いてあげることは現実に不可能であり、またそれは望ましいこととはいえないと思います。

「若いうちの苦労は買うてもせよ」ということわざにもあるように、小さな逆境の経験は大人になる過程で必須のものであり、乗り越えたり、あきらめたりしながら心が強くなっていくものだと思います。

今の子供たちにはこうした経験が少ないのかと思うことがあります。

この夏公開の映画に『逆境ナイン』（名駅・シルバー劇場他）という作品があります。弱小高校野球部が部の存続をかけて地区予選を戦うもので、次から次へと降りかかる（または自業自得による）逆境に立ち向かいながら甲子園を目指すストーリーです。これは、日本一の熱血漫画家 島本和彦氏が15年も前に描いた原作を、昨年「海猿」で一躍有名になった羽住英一郎監督があえて実写版として製作したものです。

全編通して笑いっぱなしの映画ですが、主人公のプラス思考は頭にはではなく、心に共鳴するものです。おそらく監督自身が15年前から原作に共鳴していたのでしょう。そして今、世の若者に「逆境に、自分自信に負けるな！」と訴えているような気がします。